



授業の様子

予想外の質問も

職員が一日先生に

〈指導普及課〉



一二月二〇日、高知市立愛宕中学校において、「わくわくWORK講座」が開催されました。これは、生徒たちに、仕事を

教職員と講師、保護者として反省会を行いました。教職員からは、地域に在住している身近な講師から、生徒が様々な分野の話

職員が「森にまなぶ」と題して授業を行いました。

今後の、地域へ貢献するとともに、森林環境教育の推進を図るため、このような要請には、積極的に協力していく考えです。

授業では生徒からの質問も多く出されました。中でも、木を伐った後、木が貯えた二酸化炭素はどうなるのか、天然林と人工林の違いなどの質問もありました。

授業終了後に、



各地のたより



白炭すごい!

森林教室で

炭焼き体験

〈ふれあいセンター〉

一月二五日、愛媛県松野町立松野西小学校四年生

続いて炭焼き体験になりました。児童達は、職員か

に、森林教室を実施しました。当日は、NHKテレビ局の取材があり、夕方のニュースで紹介されました。この日のテーマは「炭焼き体験」です。

折り鶴などを小型のブリキ缶に詰めていきました。そして、ドラム缶のたき火で

はじめに、炭の種類や利用法を説明し、白炭と黒炭を使った実験をしました。ノコギリを使つての切断では、黒炭は簡単に切れたの

なで確認して、缶を取り出しました。ふたを開ける時は、少し



白炭を叩く(チンチン)

まず、職員から炭の種類や特徴、いろいろな利用方法などを教わった後、自分たちで持ち寄ったいろいろなものを空き缶にモミ殻と一緒に入れ、焚き火の中に入れて炭になるのを待ちます。約三〇分ほどで缶から出る煙の色が白から透明

の予想外の発想に職員の方が戸惑う場面もありましたが、約一時間でそれぞれ自慢の一品を作り上げた頃、炭も出来上がりました。焚き火から取り出した空き缶を開け、炭を取り出します。折り紙や木の実、草、紙粘土の工作など、思いの外きれいな炭になることよ

うです。盛りだくさんで、あつという間でしたが、いろいろな道具を使って自分自身で作ったものはひとときわ愛着が湧いたようで、後日、「とてもおもしろかった」「また来てください」とお礼の手紙をいただきました。木の良さやもの作りの楽しさを十分感じてもらえたよう

心配していましたが、炭になっていたのでひと安心です。折り鶴や紙飛行機もちゃんとした炭になっていました。ジャガイモや人参は水分が残って半焼き状態でした。児童からは、「炭焼き体験は楽しかった」「炭は色々な利用ができることが分かった」等の感想があり、身近にある材料を使った炭づくりを通して、炭への関

心と理解に繋がる学習となりました。一二月二日、愛媛県鬼北町立愛治小学校の五・六年生一四名が炭焼きと木工クラフトを行いました。



まず、職員から炭の種類や特徴、いろいろな利用方法などを教わった後、自分たちで持ち寄ったいろいろなものを空き缶にモミ殻と一緒に入れ、焚き火の中に入れて炭になるのを待ちます。約三〇分ほどで缶から出る煙の色が白から透明

の予想外の発想に職員の方が戸惑う場面もありましたが、約一時間でそれぞれ自慢の一品を作り上げた頃、炭も出来上がりました。焚き火から取り出した空き缶を開け、炭を取り出します。折り紙や木の実、草、紙粘土の工作など、思いの外きれいな炭になることよ

うです。盛りだくさんで、あつという間でしたが、いろいろな道具を使って自分自身で作ったものはひとときわ愛着が湧いたようで、後日、「とてもおもしろかった」「また来てください」とお礼の手紙をいただきました。木の良さやもの作りの楽しさを十分感じてもらえたよう



炭の折り鶴

昭和中学では地元産業や環境への理解を深めるため、毎年、総合学習の時間を利用して間伐体験を行っています。一二月一三日、高知県四万十町立昭和中学校の全校生徒二三名が間伐体験を行いました。





斜めに切るのはむずかしい!!

リを入れるのに苦勞していました。また、受け口作りで斜めに切り込むのも予想以上に難しく、中には、「このまま切ったら下の切り込みと合わない」と途方に暮れる生徒もいました。しかし、昨年も経験している二・三年生の中には作業基準のお手本のようにきれいな「つる」を残して伐倒する強者もあり、思い通りの方向に向かって「ズドン」と倒れると思わず「すごい」と感嘆の声があがりました。

徳島森林管理署では、一二月から救急体制の整備の一環として、職員全員が参加して、現地で安全訓練を行いました。



後日、生徒から「間伐はとても大切な仕事だと感じた」「四万十の林業は大切な産業のひとつなんだと感じた」などの感想文をいただきました。

林業や森林に対する理解を深める一助になれたと感じます。

当署の国有林は、交通の不便な奥山に分布しており、職員が災害を被った際には、ヘリコプターによる救助を要請することが考

えられますが、防災ヘリコプターを運行する徳島県消防防災航空隊から、①緯度・経度による現地の特定、②林地であれば、吊り上げに必要な五×五m程度の空間の確保、③発煙筒による表示などを求められました。

訓練は、四グループ、四日に分かれて、刃物の扱い



雪の中での訓練

このうち、現地の特定については、関係する消防署等に国有林のグリッド図を届けると共に、職員にも緯度・経度の見方について周知し、発煙筒についても、長時間の発煙が可能なものを車両ごとに備え付けました。更に、空間の確保については、安全かつ速やかにヘリコプターによる救助が可能な場所を確保するため、実際に全職員が参加して訓練を行うこととしました。

を確実に守れるように、このような地道な取り組みを行っています。



労働災害は、起きない。起きないことが理想ですが、当署としては、万が一の際にも職員の生命

に習熟している徳島森林事務所の谷脇さんを指導役とし、現地で上方の空間が開けている場所を選定し、雑木等を伐り払って、安全かつ速やかにヘリコプターがピックアップするのに最低限必要な五×五mの空間を確保する訓練を行いました。



設置された案内看板

つるぎ町が製作、設置したものです。
この看板のお披露目には、当署も立ち会いました。当日は、久藪集落の中心にあつて、毎年開催されている「あじさい祭り」の会場となる阿弥陀堂を清掃し、登山者の安全を祈願しました。続いて、案内看板の設置箇所へ移動し、当署とつるぎ町から挨拶と説明を行ったあと、地域の方々を交えて記念撮影を行いました。地域の方々

からは、「こんな立派な看板を立ててもらったので、今後もシャクナゲ林の保護に努めたい」という声が聞かれました。
その後、会場を移して、地元の方々や郷土の森に関する意見交換会を開催しました。当署とつるぎ町から経過や今後の計画について説明しましたが、地元からは、ビクターのためにトイレの設置や登山道の改修が必要ではないかなど、率直な意見がありました。
当署としても、地元やつるぎ町の厚い要望を受けて保存協定を締結した郷土の森であることから、森林環境教育への活用などを通じて地域振興に寄与できるように、郷土の森の中への説明看板や道標、樹名板の設置などを検討していきたいと考えています。

国有林のフィールドを活かして
香川県森林協会研修会
〈香川森林管理事務所〉

一月二二日、清水国有林四林班の保育間伐（活用型）事業箇所において、香川県森林協会主催による現地研修会が、協会役員をはじめ、香川県関係者、市町関係者を含め約六〇名が参加し開催されました。
この研修会は、香川県内で行っている間伐による木材生産現場を視察研修するもので、同森林協会から国有林のフィールドを使い研修会を行ったものの依頼があり実施したものです。
当日は、晴天にも恵まれ、同森林協会宮本会長

からの挨拶を皮切りに、当所西村所長からは、民有林・国有林の一層の連携を図っていく旨の挨拶をしました。

研修会では、国有林における森林整備として、①森林作業道の作設、②高性能林業機械による作業を見学しました。

森林作業道の作設については、当所職員から、間伐等搬出作業道と高密度作業路網の規格等について説明するとともに、表土ブロッ

ク積工を中心としたバックホーによる実演を見てもらい、表土と根株を表面に戻すことにより路肩斜面の植生回復が早まり、のり面保護に繋がることを説明しました。

高性能林業機械による作業システムについては、請負者である香川森林組合連合会が、ハーベスタ、スイングヤーダ、フォワードを使用しての一連の流れ作業を実演しました。
参加者からは、今後、民有林の間伐材を搬出する際の技術指導を含め、民有林・国有林の一層の連携についての感想がありました。



研修会の様子



全国里山富士サミット

その紹介や、「里山富士と日本の心」と題した基調講演、里山を舞台とした事例発表、シンポジウムなどが行われました。ご当地富士でふるさとの活性化を図ろうと、各里山富士の魅力や取組がPRされ、里山が観

加しました。また、翌二三日には、「ふるさと健康ウォークin丸亀」と題して、すっかり秋の装いとなった飯野山での登山が行われました。当所では、飯野山のよ



このボランティア作業は、郷土の自然に興味を持ってもらうことを目的に、地元自治会、高松市立屋島東小学校、ボランティア団体等の協力を得て、毎年五月、十一月、二月の三回行う計画としています。

今回のボランティア作業によって、「源平屋島の森」の木々が元気になったように思えました。



一月二二日、丸亀市生涯学習センターにおいて、第一回全国里山富士サミットが開催されました。このサミットは、讃岐富士と呼ばれる飯野山

市町の関係者が参加し、それぞれの里山富士の紹介や、「里山富士と日本の心」と題した基調講演、里山を舞台とした事例発表、シンポジウムなどが行われました。ご

また、翌二三日には、「ふるさと健康ウォークin丸亀」と題して、すっかり秋の装いとなった飯野山での登山が行われました。当所では、飯野山のよ



ボランティア作業（下草刈り）

「源平屋島の森」には、ヤマザクラ、クヌギ、イロハカエデ等を植林しており、植林後六年が経過して樹高が約3mになっていくものもあります。日当たりが良い斜面のためクズが繁茂しやすく、

高知県労働者福祉協議会
勤労者の森事業
 〔高知中部森林管理署〕

一月一九日、高知県労働者福祉協議会からの協力依頼で森林保全を考えるという観点から、ニホンジカによる植生被害等を学ぶ森林保全教室を開催しました。

当初は、当署管内国有林で、治山事業地とニホンジカ食害対策をしている現場の見学等を交えた教室を開く予定でしたが、あいにくの雨のため、当署庁舎で行いました。

まず、治山課長が、写真等を交えながら治山事業の概要を説明し、健全な森づくりを進める重要性について話をしました。



「私は誰でしょう」(ネイチャーゲーム)

その後、アイスブレイクゲームに指導普及課企画係長らの指導のもと、ネイチャーゲーム「私はだれでしょう」をすると、大人も子どもも夢中になってゲームに集中し、会場は一気に和やかなムードになりました。

木工クラフト作りでは、各人がフクロウの壁掛けやタヌキの置物をつくり、その出来映えを披露していました。

最後に流域管理調整官から、現地で見せることのできなかつた香美市の森林におけるニホンジカによる植生被害とその深刻さ、また防止活動についての話をしました。

今回の保全教室では、参加者から様々な質問があり、その内容からは、森林に対する興味が深いこと、また期待が大きいことが伺えました。

今後もこのような機会を通じ、国有林野事業のPR活動に努めていきたいと考えています。



ふれあいの森で
保育間伐
 〔高知中部署〕

一月二六日(土) 当署管内西熊山国有林において、ふれあいの森協定を結んでいる「我が家を見直す会」の会員やボランティア八名が保育間伐を行いました。

当日は、少し肌寒かった

ものの、良く晴れた秋空のもと気持ちよく作業を行うことができました。当該箇所は枝の張ったヒノキが多く、かかり木処理に苦労しながらも当署職員の指導を受け作業を行いました。

午前中に作業を終え、昼食後は、さおりが原へと場所を移し、流域管理調整官がニホンジカによる植生被害とその防止対策について説明しました。一〇年ほどの



保育間伐作業中

前は写真を見せると参加者は現状との植生の違いに驚いた様子でした。

今回は六〇代から大学生、小学生の参加もあり、様々な世代に森林・林業について理解を深めてもらう良いきっかけになったことだと思います。